

### // 特集 // 平成11年度 ブロック研究会活動報告

#### 北海道ブロック

##### 1. ブロックの運営動向

平成12年度のブロック運営に関して、以下のことが協議・報告された。(於：平成11年度ブロック研究会)

- (1) 北崎リーダーより、新規事業計画など理事会関係の報告がなされた。
- (2) 2000年全国大会について、準備委員会より進捗状況が報告された。
- (3) 研究活動の活性化をはかるため、共同(奨励)研究助成金に関する内規(案)が提出され、承認された。
- (4) 運営委員の一部交代について協議された。新運営委員に佐々木邦子氏が決定した。
- (5) ブロック活動の活性化のため、外部に対しての学会の存在および活動内容の認知促進と新会員の積極的勧誘の協力が呼びかけられた。

##### 2. ブロック研究会の活動報告

平成11年度ブロック研究会は、平成12年3月25日(土)、かでの2・7を会場に19名(会員18名、非会員1名)が参加して開催された。研究会の内容は以下のとおりである。

- (1) 講演：「観光産業における事務職の採用と人材育成」  
加森観光株式会社総務部次長安達文幸氏
- (2) 研究報告(3件)：
  - ① 「札幌および近郊の企業における秘書職の変遷」—調査研究計画の中間報告— 官尾昌子(函館大谷女子短期大学)、佐々木邦子(北海道女子大学短期大学部)、椿 明美(國學院短期大学)、和田佳子(北海道武蔵女子短期大学)
  - ② 「学生の言葉づかいへの指導—学生の敬語に関する意識について」 加藤由紀子(北海道文教短期大学)
  - ③ 「自分を省みるマインドと社会参画意欲を形成する—演習授業での試み」 北崎 寛(札幌国際大学短期大学部)



- (1)の安達氏の講演では、事務職、とりわけ女性従業員に求める能力のレベルアップがはかられている実態や、最近の新入社員研修の動向などについて事例を交えながら語られた。採用担当者の生の声から、短大・大学教育でなすべきことが数多く示唆された。
- (2)①では、近年の北海道における秘書職の実態把握を行うための調査計画について中間報告された。②では、短大生の敬語の使用についての意識調査結果が披露され、学生たちが、中学・高校時代を通じて学校でも家庭でも敬語に関する教育を受ける機会がほとんどないことや、相手との利害の有無を考えながら敬語を使用している状況が報告された。③では、「自己理解シート」の活用と担当教員のコメント添付により、学生・教員が双方向で展開する「オフィススタディーズ演習」での試みが紹介された。

##### \*北海道ブロックから\*

第19回全国大会は9月7～8日、札幌国際大学を会場にして開催されます。北海道ブロックとしても、会員の皆様にご満足いただける大会となるよう準備をすすめているところです。初秋の北海道へ、多数の皆様のお越しをお待ち申しあげております。(和田佳子記)



#### 関東・東北ブロック

##### 1. ブロックの運営動向

森脇道子会長の後を引き継ぎ、佐藤啓子運営委員がブロックリーダーとなり、新たな1年が始まった。これを機に以下のことが、運営委員会で決定された。

- (1) 2回の会報は「お知らせ」として年1回の発行とする。
- (2) 従来、会報に研究会の発表内容を掲載していたが、今年

度からは、研究会の発表内容を知りたい人は事務局へ申し込み(送料は自己負担)、事務局から研究会のレジュメを送付する。

- (3) ビジネス実務学会費を2,000円値上げしたので、従来のブロック研究会費1,500円は徴収しない。

## 2. 研究会活動

第27回ブロック研究会は、平成12年2月18日(金)高崎商科短期大学の当番校により東商スカイホールにビジターを含む85人の会員が参加して開催された。統一テーマ「21世紀を展望するビジネス実務教育」を掲げ、全国大会を前に会員の意識を高める場とした。まず、武田秀子実行委員長の挨拶、スケジュール説明から始まり、99年度共同研究5チームからの中間報告があり、引き続き人材開発研究所長田川百彦氏による「変革する職場環境とビジネス実務」の講演。総会ではブロックリーダーから日本ビジネス実務学会常任理事会での決定事項、ブロック研究会運営委員会での決定事項についての報告があり、総会の最後には、ながらく関東・東北ブロック研究会に貢献された森脇会長へブロックリーダーから深紅のバラの花と図書券がプレゼントされ、2人の出会いのエピソードが語られたが、それはまさにビジネス実務学会の歴史の一コマを聞くようであった。午後は下記の研究発表が行われた。(①②は98年度の共同研究③④は個人研究)

- ①「ビジネスのためのプレゼンテーション学」(東京家政学院大学、小野塚久枝)
- ②「ホスピタリティの実践研究」(嘉悦女子短期大学、古閑博美)
- ③「企業における研修体系作成とその進め方」(三井海上能力開発センター、井上良之助)
- ④「就業状況の変化と実務教育の方向性」(高崎商科短期大

学、大宮智江)

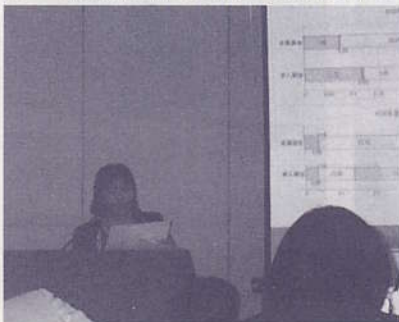
コーヒープレイクの後のワークショップは「変化する実務教育の新しい方向を探る」というテーマのもと、以下の3人のパネリストから現場の報告を聞き、その後、テーマをめぐってのグループディスカッションが行われた。

- ・水野幸子(日新製鋼株式会社ステンレス事業本部)
- ・原田純子(森永乳業株式会社情報システム部)
- ・長谷川玉枝(住友スリーエム株式会社人事部秘書室)

## 3. 共同研究活動

共同研究推進小委員会では、池内健治リーダー、大島武事務局長を中心に綿密な活動を展開している。募集要項、共同研究の進め方、共同研究の流れ、これまでの共同研究テーマを冊子にまとめブロック研究会員全員に配付し、共同研究テーマの募集を呼びかけている。2月の研究会では次の5つのグループが中間報告を行った。

- ①「高等教育期間における実務教育の改善の方向」 斉藤勇二
- ②「群馬県内企業におけるコラボレーション・情報共有の現状と課題」 山口憲二
- ③「東北地方におけるビジネス・インターンシップ制度の課題」 植竹由実子
- ④「ホスピタリティ実務教育の展開」 畑中国明
- ⑤「ビジネス情報学の構想」 小池澄男 (箱崎雅子記)



## 中部〈東海・北陸〉ブロック

### 「ブロック運営委員会」の活動

当ブロック研究会は、吉田寛治先生より島名がリーダーを引き継ぎ、運営委員会の交替を行い2000年を迎えることとなった。運営委員会は、ブロックの活性化のため研究会の開催および共同研究による助成研究を推進してきたが、今後とも積極的な活動をはかりたい。

平成10年度の研究会は、名古屋市の「安保ホール」で平成12年1月6、7日に開催し、研究発表10本という充実したものであった。

さて、平成11年度(平成11年5月1日~12年4月31日)の運営委員会の活動は、以下の通りである。

【I】平成11年6月5日(火)(於:広島)

### 1. 審議事項

- 1) 平成11・12年度中部ブロック運営委員選出について

### 2. 報告事項

- 1) 中部ブロックリーダーの交代について
- 2) 平成11年度中部ブロック研究会について

### 3. その他

- (1) 「JACB教授法研究助成制度」について

【II】平成12年1月6日(於:名古屋)

### 1. 審議事項

- 1) 平成11年度中部ブロック研究会について
- 2) 平成12年度中部ブロック研究会開催の時期・場所等について
- 3) 中部ブロック研究会の助成研究について
- 4) 運営委員の追加承認について
- 5) 次回の運営委員会の開催について

### 2. 報告事項

- (1) JACB教授法研究助成について
- (2) 2000年の全国大会について
- (3) ブロック『会報』14号の編集・発行業務について (島名正英記)

### 「ブロック研究会」の開催

本年度(平成11年度)は、平成12年1月6日(木)・7日(金)、名古屋駅前の「安保ホール」で開催された。新年早々にもかかわらず42名もの会員の参加があった。今回は、新会員が3名、さらに遠路を厭わず他ブロック研究会よりのご参加もあり有意義なものとなった。

研究会は、新ブロックリーダー島名正英先生の開催挨拶に

